

あいさつ

撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部の代表を仰せつかっています、松山です。
このような、大勢の方々に参加いただきありがとうございます。

本日は、第9回証言集会であります。この神奈川県民センターで開催しているイベントに参加して開催をしている集会もあわせれば、これまでに20回近くの証言集会を開催しています。今日の参加者の皆さんの数を加えると、のべ1000人を越える方々に「中国帰還者連絡会」の方々の証言を聞いてもらっている計算になります。

「中帰連」と「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」について初めて聞かれる方もおありでしょうが、最近印刷したばかりですが、皆さんにお配りした今日の資料の中に案内書が入っています。のち程お読みいただきたいと思います。

本日はご案内のように、森達也さんに来ていただいています。森さんには、私たちのような、ちっぽけな市民団体のお願いを快く聞き入れてくださいました。本当にありがとうございます。

のち程じっくりとお話をいただきます。今日は絵鳩さんの戦争のじつ体験にもとづく歴史の真実のお話と、国民全体がおしなべて同じ方向に向かっているかのような現在の日本社会のあり方に鋭く警告を発しておられる森さんの話とを組み合わせて、たいへん意義深い集会になることと確信しています。

絵鳩さんは今年3月に97才を迎えられて、たいへんお元気でいらっしゃいます。会場の後ろで「シベリア抑留の5年」という冊子を販売していますが、今日新発売です。そしてその前、3月の絵鳩さんの誕生日の日に発刊した「撫順戦犯管理所の6年」という冊子も販売しています。ぜひ、大勢の皆さんにお読みいただきたいと思います。

その2つの冊子のあとがきに最近の絵鳩さんの若干のエピソードを書かせていただきました。その中の一部ですが、絵鳩さんの膨大な手記の中からの二つの短い文章を紹介しています。私が何回読んでも感動する言葉です。

1つ目です。

私は、軍隊、俘虜、戦犯という16年間にわたる暗い時代の歴史の中で、せめても、最後の6年間で「撫順戦犯管理所」で過ごすことができたことは何事にも代えがたい幸せであったと思う、と書かれています。戦争犯罪人として拘禁されていた戦犯管理所での体験は、絵鳩さんにとって何事にも代えがたい幸

せであった、ということです。

もう一つです。

絵鳩さんが、今日の参加者の皆さんに向かって言っている言葉です。

いずれの会場でも、皆さんが真剣に耳を傾けていただき、私に大きな感動を与えてくださっています。この証言活動こそが、私の後半生に与えられた責務であるとともに、また私の生き甲斐でもありますので、これからも、足で歩ける限り、この活動が続けていきたいと思っています、と書かれています。

絵鳩さんの経歴をご覧いただきたいのですが、28才で軍隊にとられて、ようやく帰国された時は43才になっていました。その間、中国で4年間の戦争を体験し、敗戦後、5年間のシベリア抑留を経て、さらに、中国に引き渡されて、撫順戦犯管理所で6年間の戦犯としての勾留生活を体験されました。

絵鳩さんにとっての人生のど真ん中のまるまる15年間、足かけ16年に及ぶ、貴重な時間を「棒にふった」と書かれている文章もあります。しかしこの16年間は、なによりも絵鳩さんにとってもっとも悔やまれるのは、「学問からの断絶」であります。無二の親友「梅本克己」とともに東大に入学して「和辻哲郎」に師事してカント哲学を学んでこられた絵鳩さんは、学問こそが生きる道であったのです。じっさいに、先ほど紹介した、シベリア抑留体験の冊子に、あの過酷な条件の中で哲学の勉強を続ける努力をされてきたことも書かれています。

本日お話いただく「戦争犯罪人から人間への軌跡」という表題のお話は、主に撫順戦犯管理所での6年間の体験のお話を中心になると思います。侵略戦争に参加していた「鬼」が「人間」に立ち返った奇蹟をお話ししていただきます。集会の最後にまとめのお話ししていただく予定の姫田先生がよく言われます。

「人間が鬼のなることは、暴力的な強制などによってわりと簡単になります。しかしいったん鬼になった人間が、本来のヒトに戻ることは、その数倍も数10倍もの努力なくしては不可能だ」、ということです。

それ故にこそ、自らが参加した侵略戦争への反省を自分の口からはっきりと話される絵鳩さんの言葉ほども重いものはない、と思います。

この間、森さんの書かれた本を何冊か乱読しました。こんなことが書かれていました。

「満州事変」や「日中戦争」がはじまった頃は、それ行けどんどんで、新聞は全部が全部、戦争賛美の記事ばかりだった、「戦争反対」などと書こうものな

らば、国民から袋だたきにあっただろう、という意味のことが書かれていました。勇ましいことを書かなければ新聞が売れないので、勢い新聞社も戦争を煽るのだ、と書かれていました。

現在、尖閣問題以降、かつての「暴支膺懲」という言葉をインターネットで調べると、ずら一つと発信された記事が並んでいます。単に右翼と言われる人ばかりではありません。森さんのお話は、一つの方向に向かいつつある日本社会の現実には鋭く切りこんでくださることと思います

今日の集會に主催者がわで何人かの映像を撮る人お願いしています。「戦場のカメラマン」の豊田直巳さんも参加してくださっています。トークをしていただく時間がないのが申し訳なく思います。

絵鳩さんと同じ体験をされた、坂倉さんも千葉から来られて参加しています。坂倉さんには、3月のこの会館でのイベントのときにきてお話をしてください、とお願いしています。

最後ですが、憲法9条を未来へ、世界へ神奈川連絡会、通称「神奈川9条連」という市民団体が後援団体として、会場設営や運営などにも力をいただき、本集會をサポートしていただいています。大勢の参加もされています。ありがとうございます。

今月の20日に京急蒲田駅まえの大田区産業プラザで「9条フェスタ」という催しが開催されます。お配りしたチラシにあります。撫順の奇蹟を受け継ぐ会は1階のAB会議室で、「大原戦犯管理所での体験者」である稲葉さんの証言集會を開催します。どうぞ足を運んでいただきたいとおもいます。

本日は最後までよろしくご協力お願いします。ありがとうございました